

別表－１

レディーミクストコンクリート標準使用基準

(令和２年４月１日以降公告閲覧の工事から適用)

〔土木工事〕								
無筋及び鉄筋別	構造物の種類	セメントの種類	呼び強度(N/mm ²)	スランプ(cm)	粗骨材最大寸法(mm)	最小セメント使用量(kg/m ³)	最大水セメント比(%)	備考
無筋コンクリート	均し・捨てコンクリート、基礎コンクリート※	高炉セメント(B種)	18	8	40	－	65	
	側溝、管渠巻立、集水桝、石積(張)、ブロック積(張)の胴込・裏込・天端、ガードレール基礎(端末支柱)、トンネル覆工(インバート)、擁壁、水路、重力式構造物(橋台)、落差工帯工、床固工(溪流保全工内)、治山ダム、河川護岸用法留、河川用根固ブロック	〃	18	8	40	－	60	
	海岸構造物、海岸用消波ブロック	〃	18	8	40	－	55	
	トンネル覆工(NATM、小断面、矢板工法アーチ、側壁)	〃	18	15	40	270	60	
	砂防えん堤(堤体、側壁、水叩)、床固工(単独、溪流保全工上流端)	〃	18	5	40	－	60	
	砂防えん堤(堤冠部)	〃	21	5	40	－	60	
	コンクリート張工	〃	16	3	25	265	60	※設計基準強度
鉄筋コンクリート	堰、水門、潜函、側溝蓋、井筒、ポンプ場	〃	21	8	25	－	55	
			21	12	25	－	55	
	同上(直接海水の影響を受ける構造物)	〃	21	8	25	330	45	
			21	12	25	330	45	
	橋梁下部工、擁壁、函渠	〃	24	8	25	－	55	
			24	12	25	－	55	
	ラーメン構造物、RCスラブ、RCT桁、RCホロースラブ、橋梁踏掛版、地覆、剛性防護柵、樋門(管)	普通ポルトランドセメント	24	8	25	－	55	
			24	12	25	－	55	
	深礎	高炉セメント(B種)	24	8	40	－	55	
			24	12	40	－	55	
	非合成桁床版	普通ポルトランドセメント	24	8	25	300	55	
			24	12	25	300	55	
	リバース杭、ベノト杭等場所打杭用(水中コンクリート)	高炉セメント(B種)	30	18	25	350	55	
	PC橋(横桁・床版場所打部)、合成桁床版、プレテンI桁中詰、PCホロースラブ中詰	普通ポルトランドセメント又は早強ポルトランドセメント	30	8	25	－	55	
			30	12	25	－	55	
	ウォーキングによる場所打ちボステン桁(中空床版、箱桁、斜材付π型ラーメン)、PCラーメン橋	〃	36	8	25	－	55	
			36	12	25	－	55	
	PCボステン桁(T桁、張り出し・押し出架設の箱桁)	〃	40	8	25	－	55	
			40	12	25	－	55	
	舗装コンクリート	高炉セメント(B種)	曲げ4.5	2.5	40	－	55	
	同上	〃	曲げ4.5	6.5	40	－	55	

注) 1) 構造物の種類は、標準的な例を示したものである。

2) 各種技術指針、示方書及び構造計算書等に定めのある場合は、それによること。

3) レディーミストコンクリートの仕様は、設計図書に明記すること。

4) 粗骨材最大寸法は、JIS A 5308による最大寸法の規定である(最大寸法25mmの場合、25mm、20mmのいずれも使用可能)

5) 高炉セメント(B種)で発注した工事であっても、下記に該当する場合は協議により設計変更することが出来るものとする。

① 当該現場地域で高炉セメントコンクリートの供給能力がない場合

② 著しく気象条件が悪く、コンクリートの品質低下の恐れがある場合

③ 災害復旧等、緊急を要する工事の場合

④ その他、監督職員が高炉セメントの使用が困難と認めた場合

6) 構造物の種類によりスランプ8cm及び12cmとある場合は、12cmを標準とする。(詳細は、「流動性を高めた現場打ちコンクリートの活用に関するガイドライン(H29.3)」によるものとする。)

※河川護岸用コンクリートブロック積み(張り)工の基礎コンクリートは、河川護岸用法留として扱うこと。

別表－2

レディーミクストコンクリート標準使用基準

(平成26年4月1日以降公告閲覧の工事から適用)

〔港湾工事〕								
無筋及び鉄筋別	構造物の種類	セメントの種類	呼び強度(N/mm ²)	スランブ(cm)	粗骨材最大寸法(mm)	最小セメント使用量(kg/m ³)	最大水セメント比(%)	備考
無筋コンクリート	管渠固定基礎、中詰コンクリート、中詰ブロック、均し・捨てコンクリート、その他耐久性の必要度小の構造物	高炉セメント(B種)	18	8	40	－	65	
	本体ブロック、防波堤上部工、ケーソン蓋、根固ブロック袋詰コンクリート、異形ブロック(消波、被覆)(35t型未満)、直立消波ブロック	〃	18	8	40	－	65	W/C60%と単価が同一の場合は、W/C60%を使用
	係船岸上部工、胸壁、水叩き、係船直柱基礎(重力式)、擁壁、暗渠、控壁	〃	18	8	40	－	60	
	異形ブロック(消波、被覆)(35t～50t型)	〃	21	8	40	－	65	
	エポキシ舗装	〃	曲げ4.5	2.5	40	－	－	
	水中コンクリート	〃	30	15	40	370	50	
鉄筋コンクリート	係船岸上部工、胸壁、渡橋、防波堤上部工、床版、控杭上部工、控壁、係船柱基礎(杭式)	〃	24	12	25	－	60	許容塩化物量0.30kg/m ³ 以下
	消波ブロック	〃	24	12	25	－	55	
	ケーソン、ウェル、セルラーブロック、L型ブロック、栈橋の橋柱、栈橋上部工	〃	24	12	25	－	50	

- 注) 1)ケーソン蓋は、プレキャストを含む。
- 2)50tを超えるブロックについては、適宜検討する。
- 3)舗装厚が10cmのエポキシ舗装は、最大骨材寸法を25mmとする。
- 4)臨港道路等で海水及び飛来塩分の影響が軽微と判断される場合は、「レディーミクストコンクリート標準使用基準(土木工事)」によること。
- 5)栈橋上部工については、既設の劣化等により、適宜検討する。
- 6)別表は、あくまで標準であり、現地の状況やブロックの形状等により判断し、コンクリートの配合を決定すること。

- 7)鉄筋コンクリート構造物のうち橋梁等の重要構造物や補修の困難な構造物等では、鋼材の腐食対策のため、エポキシ樹脂塗装鉄筋の利用やコンクリート表面の被覆、電気防食の必要性についても検討をすること。
- 8)無筋コンクリートのケーソン蓋で、コンクリートの打込み後、初期材齢で波浪の衝撃、冠水のおそれがある場合や寒冷期に施工する場合等では、圧縮強度の特性値を24N/mm²とすることができる。
- 9)鉄筋コンクリートで耐久性を考慮して、最大水セメント比を50%以下に設定する場合では、圧縮強度の特性値として30N/mm²を用いることができる。
- 10)上記以外は「レディーミクストコンクリート標準使用基準(土木工事)」によること。

〔空港工事〕								
無筋及び鉄筋別	構造物の種類	セメントの種類	呼び強度(N/mm ²)	スランブ(cm)	粗骨材最大寸法(mm)	最小セメント使用量(kg/m ³)	最大水セメント比(%)	備考
無筋コンクリート	空港エポキシ舗装	普通ポルトランドセメント又は高炉セメント(B種)	曲げ5.0	2.5	40	－	50	

- 注) 1)コンクリート版の厚さが30cmを超える場合は、粗骨材の最大寸法を50mmとすることができる。
- 2)やむを得ず手仕上げ或いは簡易な機械による施工をおこなう場合、スランブを6.5cmとすることができる。
- 3)その他、空港土木工事共通仕様書、空港土木施設施工要領によること。
- 4)上記以外は「レディーミクストコンクリート標準使用基準(土木工事)」によること。